

## 【取組の概要】

- ・昇仙峡における県有林の松林を松くい虫被害から守るため、県は、松くい虫被害木の伐倒駆除（薬剤によるくん蒸等）を実施。
- ・甲府市、甲斐市は昇仙峡における民有林の松くい虫被害木の伐倒駆除を実施し、県は両市に対して補助事業（「昇仙峡松機能回復整備事業」）による事業費の補助を実施。

## 【体制】

- ・山梨県、甲府市、甲斐市

## 【取組内容】

## ■ 松くい虫被害木の処理状況



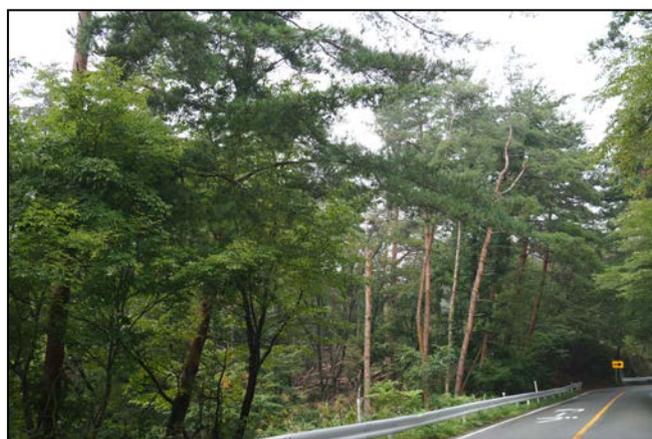
着手前



着手後



着手前



着手後



松くい虫（正式にはマツ材線虫病）は、マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウによりマツが枯死する病気である。被害木の伐倒、薬剤による処理（くん蒸等）により防除している。

## [ 1 ] 取組経緯

- 昇仙峡の松くい虫被害は、昭和54年に発生し、被害のピークを迎えた昭和62年には被害本数578本、被害材積294m<sup>3</sup>に及んだ。
- 平成に入り被害は一旦落ち着きを見せたものの、平成20年に被害本数2,117本、被害材積1,506m<sup>3</sup>と2回目のピークを迎え、以降被害は下降してはいるが依然として発生している。
- 昇仙峡は、国指定の特別名勝であり、優れた景観を持つ観光地であることから、被害の発生以来、県、甲府市、甲斐市（旧甲斐市）は伐倒くん蒸等による駆除を実施してきた。
- 平成20年度からは、昇仙峡での重点的な松くい虫被害対策を図るため「昇仙峡松機能回復整備事業」をスタートし、昇仙峡において、県、甲府市、甲斐市が重点的な防除をすることとした。

## [ 2 ] 工夫した点

- 伐倒くん蒸の際に用いられるビニールは、全て生分解性のビニールであり、環境への負荷が低減されるよう配慮している。
- 昇仙峡は、急傾斜地が多いため、伐倒した松くい虫被害木の落下防止や、くん蒸の際に揮発した薬剤が漏れないように、被害木がビニールにより確実に密封されるよう整地するなどの工夫をしている。

## [ 3 ] 取組効果

- 昇仙峡において、松くい虫の被害について完全な終息は図れていないものの、被害木の伐倒駆除によりアカマツの消失は防げている。

## [ 4 ] 取組の今後の展開及び課題

- 引き続き被害木の伐倒駆除に努め、被害の減少に努めていく。
- 切り立った崖等の松くい虫被害木は、作業員の安全が確保できず伐倒できないため、松くい虫防除における新しい手法の開発が望まれる。

## [ 5 ] 事業費、財源とした補助事業等（平成25年度）

（単位：千円）

事業名	事業内容	事業費	国庫補助	県費ほか
昇仙峡松機能回復整備事業	伐倒くん蒸等 477.17m <sup>3</sup>	8,185	4,599	4,601